

平成29年度 湖北広域行政事務センター議会議員研修

研修の概要

- 実施日 平成29年11月14日(火)
- 研修先 可茂衛生施設利用組合
同組合内 緑ヶ丘クリーンセンター(汚泥再生処理施設)
岐阜県美濃加茂市牧野1912の2
- 参加人数 26人(センター議員14人、構成市職員2人、センター職員10人)
- 研修目的 現在、センターでは、ごみ・し尿処理施設、斎場の運営を行っていますが、平成41年度を目途にすべての施設の一極集中での整備計画を最重要課題として進め、建設候補地が決定したところです。
各施設ともに住民生活に直結していること、また全ての施設の更新には多額の事業費が必要となること、また平成33年4月に供用開始を予定している斎場施設はPFI方式の導入により整備を進めていくことから、将来にわたる長期的な施設運営を見据え、利便性と効率性を確保していくために、議会の立場で様々な検討をしていく必要があります。
こうしたことから、実際にPFI方式により斎場整備を進められている事例を研修し、今後の検討の参考とするため、今回の研修を実施いたしました。
今回研修先とした可茂衛生施設利用組合は、現施設の更新計画の当初からPFI方式の導入を検討、導入可能性調査を経て、平成29年3月にPFI民間事業者と事業契約を締結されました。現在は、平成31年4月の供用開始に向けて順次整備を進めておられます。

【可茂衛生施設利用組合】

ささゆりクリーンパーク	可燃ごみ処理施設: 240t/日 不燃ごみ処理施設: 60t/日 最終処分場: 埋立容量80, 200m ³ わくわく体験館(宿泊施設、風呂、ガラス体験館、体育館)
緑ヶ丘クリーンセンター 可茂聖苑	汚泥再生処理施設: 100kl/日 火葬炉8基

研修内容

12:30 クリスタルプラザ出発

14:15 可茂衛生施設利用組合到着

研修開始

可茂衛生施設利用組合の職員の方から、新斎場整備にあたってPFI方式を導入された経過をPFI方式のメリット等を交えながら説明を受ける。その後、質疑応答が行われ、実際の事業者選定を行う際の留意点や、長期的な事業期間における信用性と万が一事業者が破綻した場合の対応について、その他、新たな方式を採用するうえでの市民、議会への説明と反応について説明を受けた。

施設見学

組合事務所内に併設されている汚泥再生処理センターの処理方法について説明を受ける。

施設処理能力100kl/日

汚泥再生方式:炭化製品化。炭化製品および乾燥汚泥は肥料登録。

肥料配布方法:管内住民(一般家庭)や 構成自治体(官庁)に無料配布。

(炭化肥料:一般家庭87%、官庁13%)(乾燥肥料:一般家庭95%、官庁5%)

15:40 可茂衛生施設利用組合出発

17:30 クリスタルプラザ 到着

◆研修の様子

